

## Indicators Update

2012年6月13日 全7頁

# 4月機械受注～民需は回復基調を辿る

経済調査部

エコノミスト 増川 智咲

民需は製造業・非製造業ともに増加も、外需に不安が残る

### [要約]

- **【概況】民需は回復基調も、外需に不安は残る：**4月の機械受注統計は、欧州財政問題の影響で外需に不安は残るものの、総じて回復を確認できる内容であった。国内の機械設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+5.7%と前月からの反動で伸び、市場コンセンサス（同+1.6%）を上回った。
- **【受注の主要内訳】製造業・非製造業ともに増加：**需要者別では、製造業が前月比+3.4%、非製造業も前月比+5.7%と前月からの反動で伸びた。ただし、これまで好調に推移していた「自動車・同付属品」は、夏頃に見込まれるエコカー補助金打ち切りを見据えて大きく減少し、前月比で大きく落ち込んでいる。外需は、前月比+0.3%とプラスとなったが、水準でみると依然弱い。
- **【今後の見通し】設備投資は回復へ：**今後は、復興需要のほか、夏季の電力不足に備えた、製造業による節電投資を背景に、設備投資は回復軌道を辿るだろう。ただし足下では、欧州財政問題を背景とした、EU向け輸出の減少による新興国経済の減速が懸念される。この影響により、企業の設備投資を控える姿勢が強まる可能性には引き続き注意が必要だ。また、エコカー補助金打ち切りに先立ち、「自動車・同付属品」の設備投資に引き続き反動減が予想される。

## 【概況】 民需は回復基調も、外需に不安は残る

民需は、予想を上回る伸び

4月の機械受注統計は、欧州財政問題の影響で外需に不安は残るものの、総じて回復を確認できる内容であった。国内の機械設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+5.7%と前月からの反動で伸び、市場コンセンサス（同+1.6%）を上回った。3ヶ月移動平均でも前月比+1.8%と4ヶ月連続のプラスとなり、回復基調にあると言える。

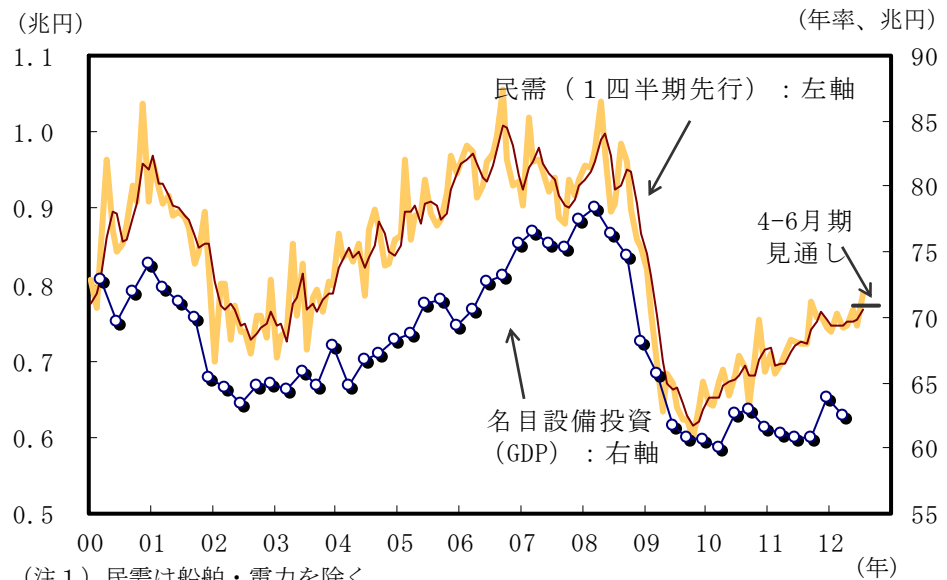
図表 1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2011年								2012年			
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
民需（船電を除く）	0.1	7.7	▲2.8	0.5	▲2.3	▲0.6	3.1	▲2.5	0.7	2.8	▲2.8	5.7
コンセンサス												1.6
DIR予想												4.0
製造業	0.2	4.1	▲3.0	4.6	▲7.8	2.8	2.9	▲4.0	▲1.3	9.5	▲8.4	3.4
非製造業（船電を除く）	▲2.6	10.2	▲1.1	▲4.1	5.6	▲4.8	5.4	▲4.0	1.4	2.1	▲3.9	5.7
外需	▲3.7	▲4.6	▲6.8	22.2	▲16.0	1.6	14.1	4.1	14.6	▲13.4	▲14.4	0.3

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府、Bloombergより大和総研作成

図表 2：機械受注とGDPベースの名目設備投資



（注1）民需は船舶・電力を除く。

（注2）民需の太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

## 【受注の主要内訳】 製造業・非製造業ともに増加

エコカー補助金打ち切りを見据えた様子

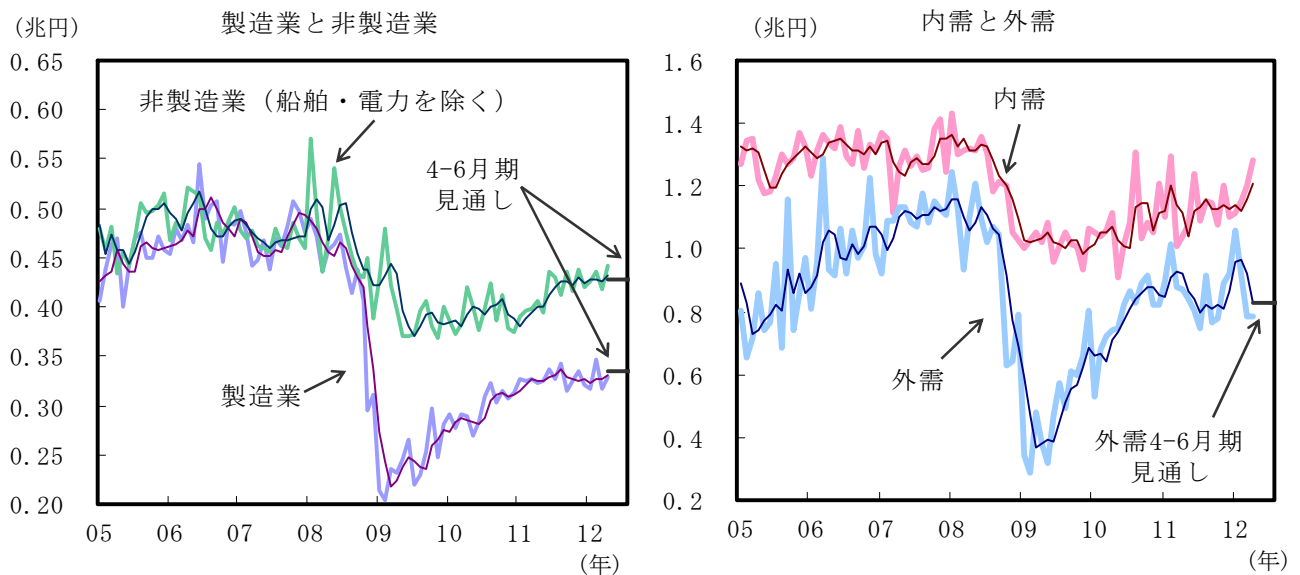
需要者別では、製造業が前月比+3.4%と「情報通信機械」や「化学工業」を中

心に前月からの反動で伸びた。機種別では、「産業機械」が堅調な推移である。ただし、これまで好調に推移していた「自動車・同付属品」は、夏頃に見込まれるエコカー補助金打ち切りを見据えて大きく減少し、前月比▲20.0%と落ち込んでいる。また、非製造業も、前月比+5.7%と「卸売業・小売業」を中心に堅調な伸びとなった。

#### 外需は弱い

他方、外需は、前月比+0.3%とプラスとなったが、水準で見ると依然弱い。特に、機種別で見ると大型受注で1月に大きく増加した「産業機械」が弱含んでいる。また、財務省の貿易統計によると、中国・ASEAN 向けの一般機械輸出が足下で落ち込んでいる。欧州財政問題がくすぶる中、4-6月期の外需は前期比▲9.7%の落ち込みが予想されており、今後も弱い基調が続くと考えられる。

図表3：需要者別機械受注（季節調整値）



(注) 太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

### 【今後の見通し】設備投資は回復へ

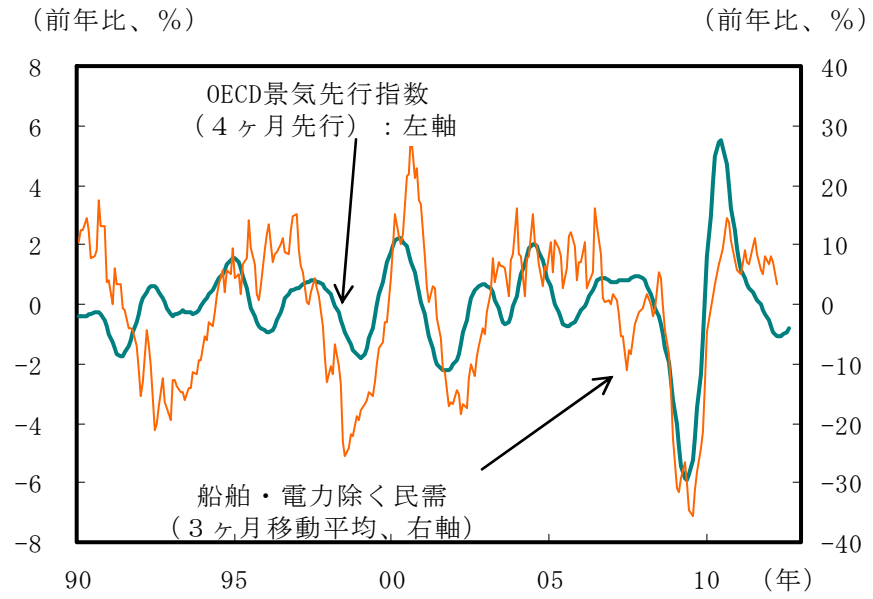
#### 設備投資は回復軌道を辿ろう

今後は、復興需要のほか、夏季の電力不足に備えた、製造業による節電投資を背景に、設備投資は回復軌道を辿るだろう。

#### 欧州・新興国経済の減速に注意

ただし足下では、欧州財政問題を背景とした、EU 向け輸出の減少による新興国経済の減速が懸念される。この影響により、企業の設備投資を控える姿勢が強まる可能性には引き続き注意が必要だ。また、エコカー補助金打ち切りに先立ち、「自動車・同付属品」の設備投資に引き続き反動減が予想される。

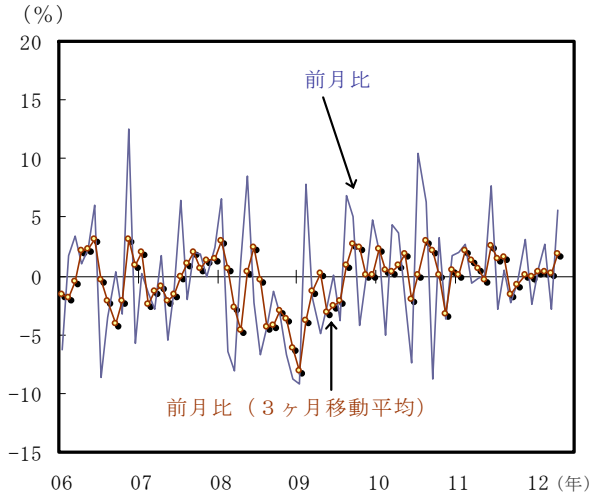
図表 4 : 世界景気と機械受注



(出所) OECD、内閣府統計より大和総研作成

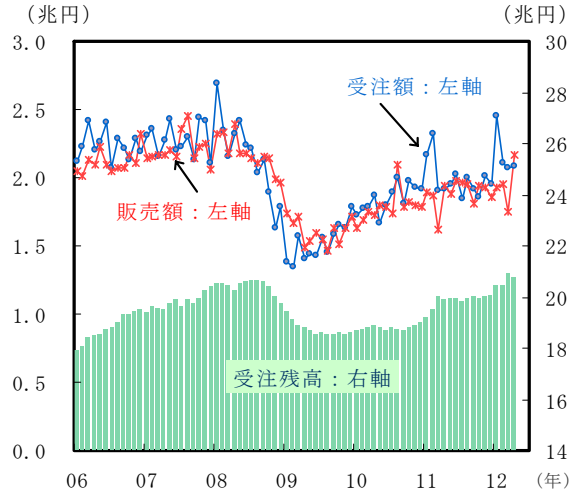
**概況**

民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）

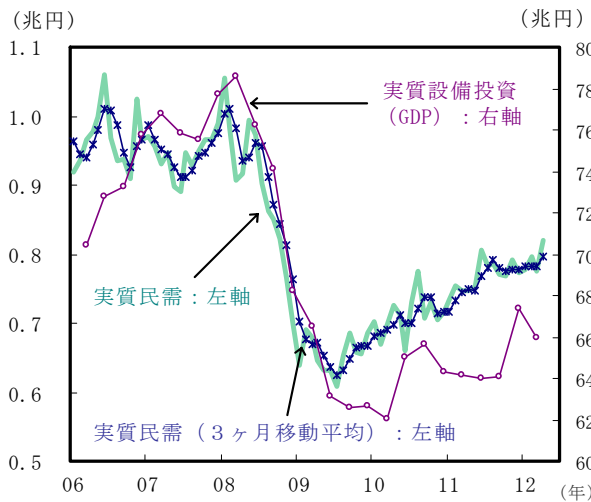


(出所) 内閣府統計より大和総研作成

船舶を除く合計（季節調整値）

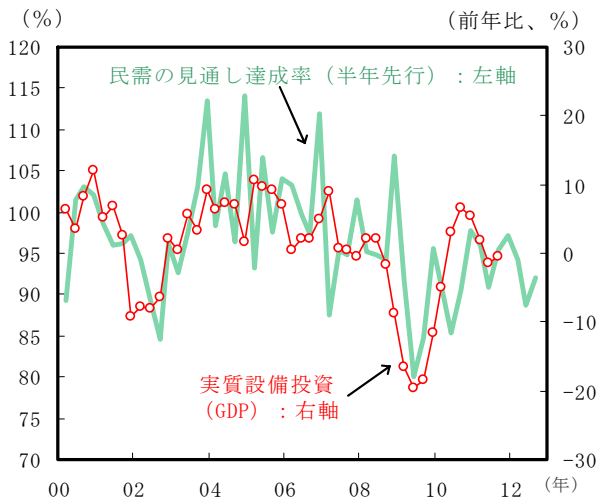


実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）

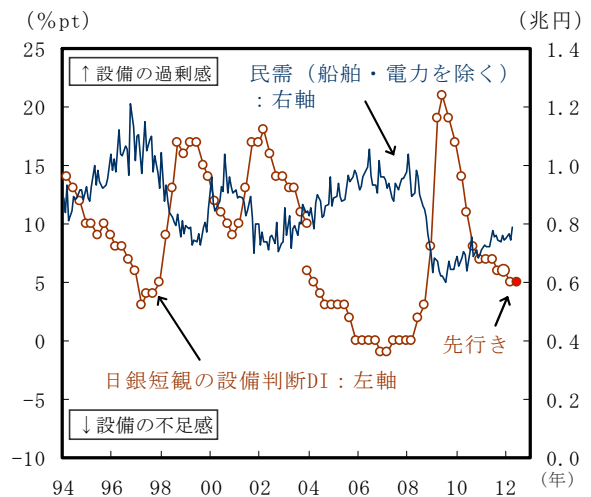


(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資

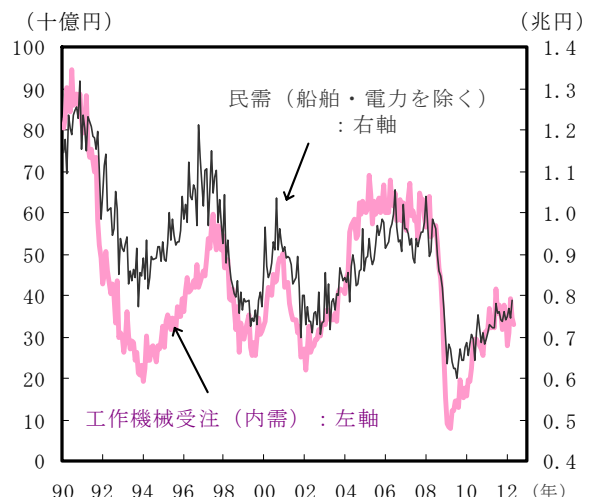


機械受注（季節調整値）と設備投資判断DI



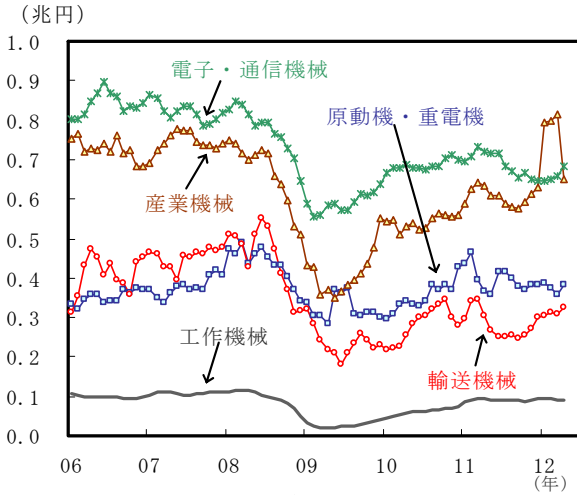
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注と工作機械受注



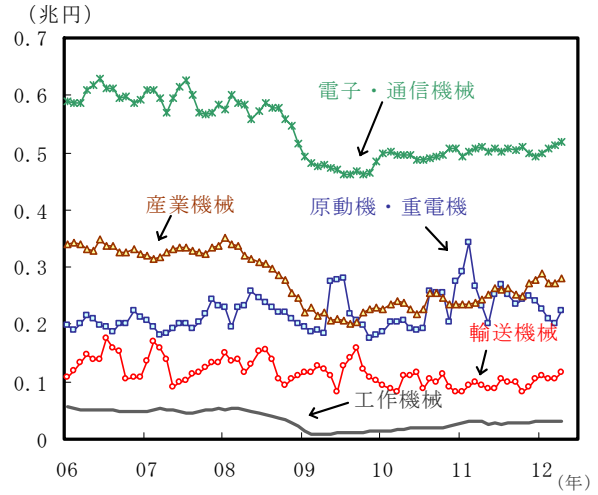
**機種別と製造業・非製造業の動向**

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

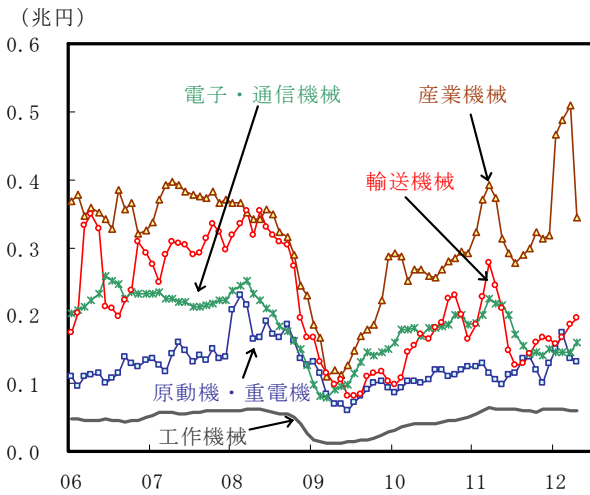


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

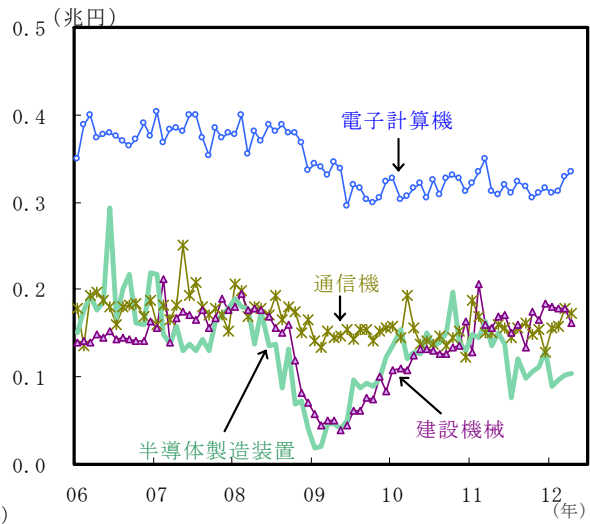


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

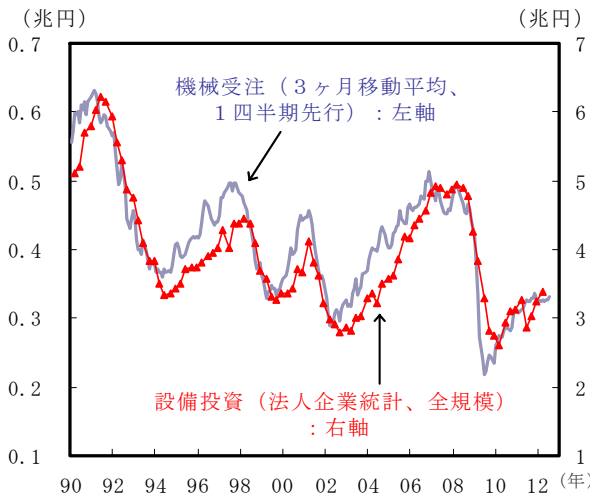


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）

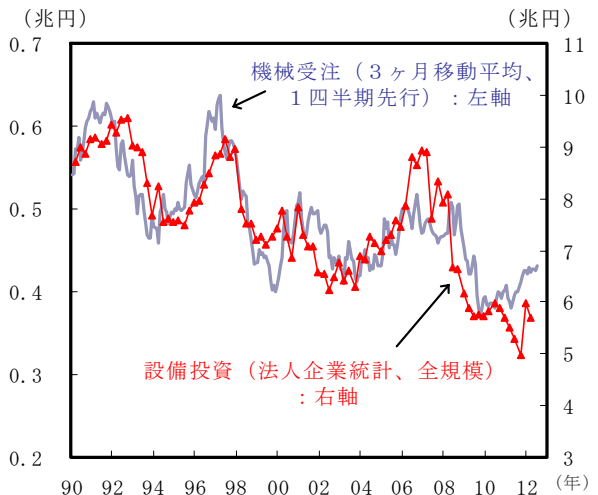


機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



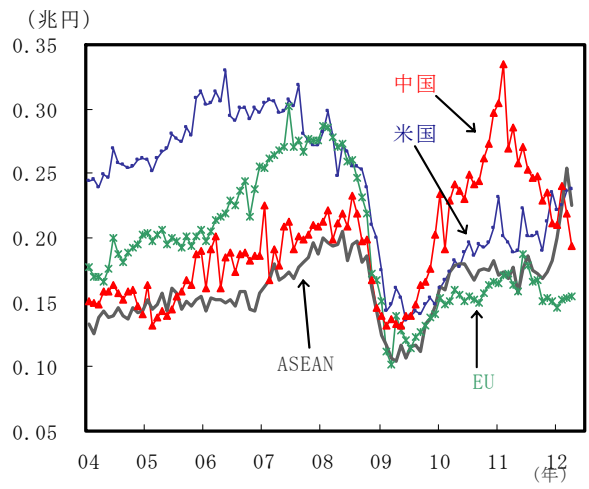
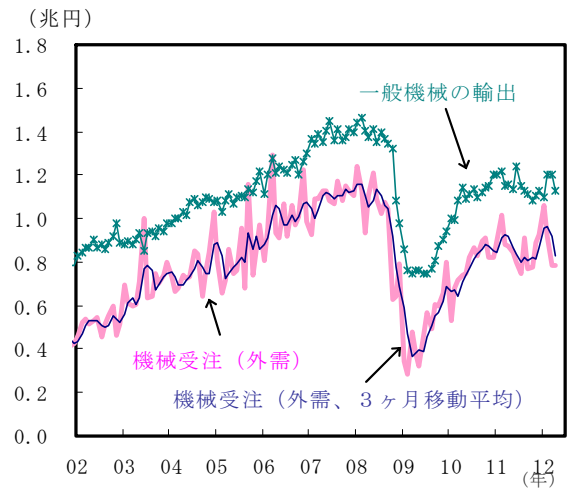
(注) 設備投資の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）



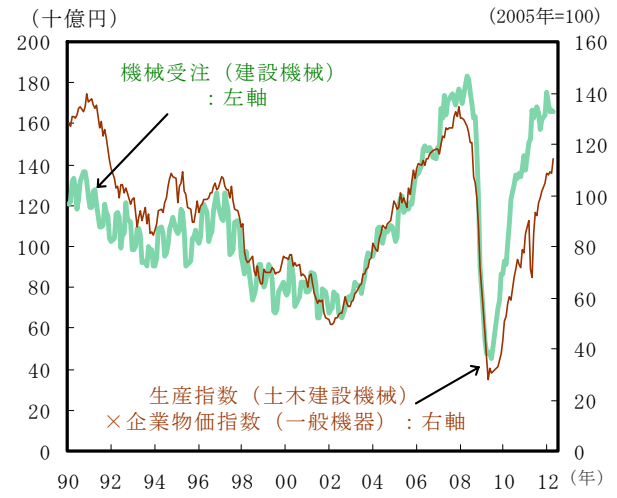
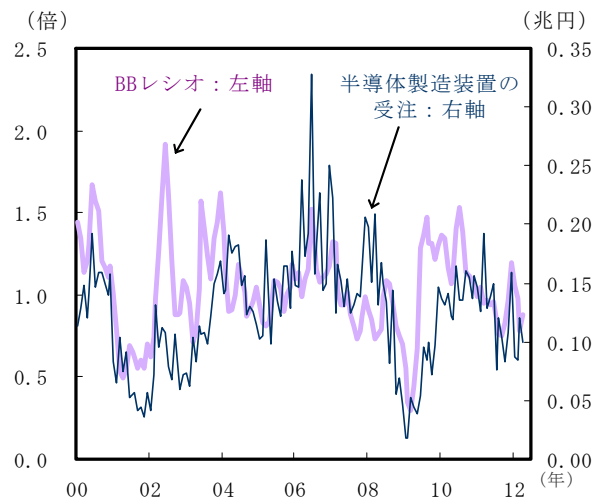
その他

一般機械の輸出と機械受注の外需 (季節調整値)      一般機械の輸出先 (主要国・地域、季節調整値)



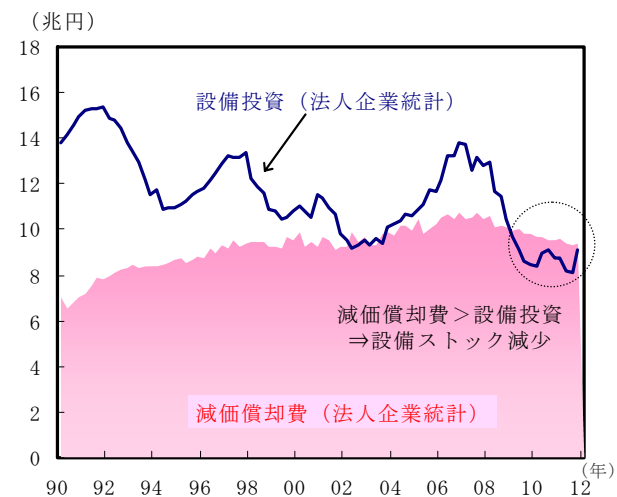
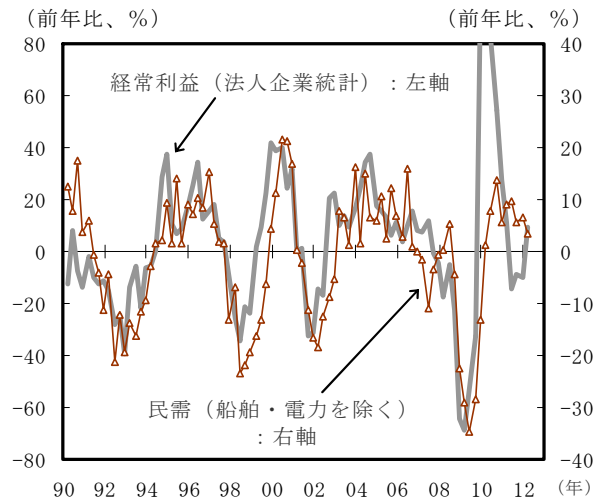
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省、日本銀行統計より大和総研作成

半導体製造装置の受注とBBレシオ      機械受注と生産 (建設機械)



(注) 設備投資の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、日本半導体製造装置協会、経済産業省統計、日本銀行統計より大和総研作成

企業収益と機械受注 (前年比)      設備投資と減価償却費 (季節調整値)



(注) 法人企業統計は、全規模・全産業 (金融・保険業を除く) ベース。減価償却費の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成